

G-4 技術・家庭科学習内容に対する生徒の興味 (第3報)

広島大教付高 道丹 博子

1. 先に小学校家庭科の学習内容に対する児童の興味について調査したが、今回は中学校技術・家庭科の学習内容に対する生徒の興味は学習前と学習後とで、どのような変化を示すかを一対比較法によって、都市と農村の両地域について比較検討した。

2. 学習前は昭和42年5月～6月、学習後は昭和43年3月のそれぞれの期間に、広島県の都市と農村の中学校2校ずつ計4校の第1～3学年の生徒(調査実数1100名)を対象に調査用紙を配布して調査を行なった。調査用紙の質問項目は現行の中学校技術・家庭科学習指導要領の内容を17項目に精選して136対の項目を作成した。

3. 第1学年は調理実習、ブラウス、スカートの製作、かぎ針編み、棒針編みなど都市、農村共に学習前の興味は大で、工作図のかき方、家庭工作などは興味が小であったが、学習後も興味の大小には変化がない。第2学年は、調理実習、休養着の製作、ししゅう、被服計画など都市、農村共に学習前の興味は大で、ミシン製造の材料、機械要素などは興味が小であったが、学習後も興味の大小には変化がない。第3学年は、調理実習、食事作法、ワンピースドレスの製作、幼児のおやつなどは都市、農村共に学習前の興味は大で、回路計の使い方、屋内配線のしくみ、けい光燈のしくみなど興味が小であったが学習後も興味の大小には変化がない。学習後もすきな内容はすき、きれいな内容はきれいな傾向がある。